

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

学校名 豊島区立明豊中学校

校長名 山本 英行

学校の教育目標			
○自ら学び深く考える生徒 ○思いやりの心と強い意志をもつ生徒 ○健康で明るく礼儀正しい生徒			
学力に関する目指す生徒像			
自ら考え、行動する＝「実践力」の育成 ・自らの進む道を自ら考え、切り拓く力をもった生徒 ・自他の関わりの中で思いやりを学び、人とのつながりの中で取り組む生徒 ・自らの考えを的確に表現し、行動につなげる力を持った生徒			
授業改善推進プランの全体像			
本校の授業改善に向けた視点			
教育課程編成上の工夫	評価活動の工夫	指導内容指導方法の工夫	校内における研修の工夫
○「教育計画」に従って教育課程を進行 ○学期毎の教育課程の進行調査の実施と改善策の実施 ○行事運営の改善と体験学習の充実 ○ESD,SDG s の視点 ○外部人材の活用	○保護者に「教育計画」を配布し、指導計画および観点別学習評価と評定についての説明 ○学習の支援となる評価の工夫 ○評価に関する毎学期最初の説明 ○評価規準の見直しと教科内での共通理解 ○明確な評価資料の提示 ○生徒による授業評価2回実施（7月・12月）	○習熟度別少人数指導による個に応じた指導の充実（数学） ○言語活動の推進 ○定期考査前に質問教室を開催 ○長期中業明けの復習テストの実施	○OJT 研修の実施・推進 ○校内研修の充実と外部講師の招聘 ○研究授業の実施と研究協議、フォローアップ ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての研修 ○ICT の効果的な活用

令和5年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
・自ら学び、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことを言語活動を通して、言葉を正確に理解し、表現する能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	読むことや言語文化に関する事項については、目標値を上回ったが、話すこと・聞くことは下回っている。	どのような授業展開でも、話し合う機会を意図的に取り入れ、日頃から話す力、聞く力を伸ばす機会を増やしていく。
2年	読むことは比較的理解が出来ている。 話すこと・聞くことの領域が平均より低い。	グループでの話し合いや、スピーチ・プレゼンテーションなどの話す活動を通して、話の仕方や聞き方をおさえ、定着させる。
3年	読解に関しては目標値を上回っているが、言語文化や文法に関する問題は理解が足りていない。	入試対策を行う中で既習事項の確認を行い、言語文化に関する学習は暗唱課題や古典分野の学習を繰り返し行い、定着を目指す。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力		
・自ら学んで取り入れた知識・技能をもとに課題に対して自分の考えを持って表現することができる能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・主体的に取り組む姿勢は概ねできているが、基礎的な知識や思考力、判断力の差が大きく、発展的な学習が困難な生徒も若干見られる。	・振り返りの時間や小テスト等の実施により、知識の定着を進める。 ・諸資料の読み取りを意図的に行い、自分のことばでまとめたり、発表したりする機会を設定する。
2年	・主体的に取り組む態度の問題は平均値を超えているが、知識・技能の問題が下回っている。 ・地理の学習を苦手としている。	・小テストの実施等行い、知識の定着を進める。 ・地理の授業において興味関心を持たせたり、理解度を上げたりするために、視聴覚資料を用いる。 ・図表やグラフの読み取りを授業に積極的に取り入れる。
3年	・知識・技能の問題は、全国平均を超えている。 ・思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度は全国平均を下回っている。	・知識・技能は定着してきているので、それらを活用できる学習課題を設定した授業展開を行う。 ・生徒の興味関心を引き出す教材を開発を引き続き行う。

3 数学科

目指す生徒像を基にした育成したい数学科で資質・能力		
・自ら学び、他者との関わりの中で自らの考えを的確に説明し、お互いの考えを取り入れる能力を育成する。 ・自ら学び、実生活の中で数学との関わりを見つけ、解決していく能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1 年	文字式の表す場面・百分率の正答率が目標値より比較的大きく下回っていた。	現実の世界と数学の世界の関係を意識した指導を行うことで、様々な場面で数学を用いようとする姿勢を養い、思考力・判断力・表現力の育成に繋げる。
2 年	比例・反比例、平面図形が全国平均に比べやや低い傾向にある。 主体的に取り組む態度に課題がある。	1 次関数の中で、既習事項の復習を行い、関数の領域に対する基礎基本の定着を図る。 より身近な例を取り上げ、興味関心を高める。
3 年	数と式の領域は目標値を上回っているが、関数の領域は特は目標値より低かった。	関数や証明問題の既習事項の確認と復習をし、演習時間を確保することで定着を目指す。

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力		
自ら考え行動し、課題を解決していける能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1 年	全ての領域においておおむね良好であるが、主体的に取り組む態度は目標値より特に下回っている。	日常生活や社会生活と学習内容を関連付けながら教えることで、興味・関心を引き出し、学習意欲を喚起する。
2 年	記述回答は全国より高いが、基礎の定着が低く、生命、エネルギー、粒子の領域ができていない。	該当範囲の基本的事項の復習、類似する問題のテストを行い、知識理解の定着を図る
3 年	特に物質の成り立ちの領域の正答率が、全国の平均正答率を下回っている。	イオンの学習に入る前に既習事項の確認を重点的に行い、化学分野における生徒の理解を定着させる。

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりと音楽の多様性について理解する力を育成する。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く力を育成する。 ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育む。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1 年	歌唱活動に積極的であるが、感想を書く力が低い。	様々なジャンルの音楽に触れる機会をつくり、感性を豊かにさせていく。

2年	歌唱に対して消極的ではあるが、鑑賞教材では聴くことができ自分の考えもまとめられるようになってきた。	発声方法を工夫し、雰囲気作りから大切にすることで声に出す事への抵抗感をなくしていく。
3年	実践的な音楽活動を通して、音楽のよさについて考える事ができるようになっている。	身近にある音楽を紹介し、生活の中に音楽を定着させられるようにする。

6 美術科

目指す生徒像を基にした美術科で育成したい資質・能力		
・対象や事象を捉える造形的な視点を理解し、表現を工夫しながら、楽しんで創造活動ができる ・表現の意図と工夫、機能性と美しさの調和、美術の働きについて考え主題を生み出すことができる ・美術や美術文化に対する見方や考えを深め、生涯にわたって美術を愛好する態度を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	自分の考えや思いついたことを上手く表現することができず、苦手意識をもっている。	多くのカテゴリに触れさせ、創作活動の楽しさを感じられるような計画を立てられるとともに、表現したいことに合わせた技法の提案や指導をする。
2年	美術と社会の役割について考えながら制作できるようになってきたが、主題が決められず、制作が進まない生徒が多い。	デザインの時間や社会と美術について学習させ、何のためにつくるのかに焦点を当てて授業を展開する。また、振り返りカードを活用して見通しを立てながら制作できるように指導する。
3年	美術鑑賞において、友達の見解も聞きながら多様な価値観について理解を深められるようになっている。	日本の美術文化や諸外国の伝統作品との比較などの学習を基に制作ができるようにし、視野を広げられるようにする。また自分の価値観を深めていけるような鑑賞の授業を展開する。

7 保健体育科

目指す生徒像を基にした家庭科で育成したい資質・能力		
・生涯にわたって運動を親しむ態度を育成する。 ・様々な運動の技能を習得させる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	小学校でもコロナ対応の体育のため、体力の低下が見られた。長距離走に対して前向きに取り組めない生徒が多い。	サーキットトレーニングやランニングなどの基礎体力をつけることを行った。
2年	男女教習授業にも慣れてきたが、種目によって、意欲に差が出る。	陸上練習や運動会練習を行い、前向きに取り組む姿勢の向上を目指した。
3年	運動に対する前向きな姿勢が見られる。男女教習授業も慣れてきた。	男女教習授業で様々な運動を行い、巧緻性を高め、体力の向上を目指した。

8 技術・家庭科

目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力		
よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業に前向きに取り組んではきているが「なぜ、学ぶのか」を理解できていない生徒もいる。	毎時間の授業の中で、日常生活との関わりを意識させるようにする。
2年	課題を発見する力は身についたが、課題解決能力については課題がある。	課題解決力を高めるために、授業の中で考えさせる機会を多く設定する。
3年	知識を理解していても、生活の中で活用することがあまりできていない。	授業で学んだことを、生活の中で課題を見つけ探求できるような指導をする。

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力		
・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、4技能の力を統合的に育成する。 ・実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を習得させる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	リスニングに関しては概ね理解できているが、リスニングしたことを文で表現することに課題が見られる。同様に、英文を読み取ることは概ね理解できているが、文で表現することに課題がある。	4技能のうち、特に書くことへの課題を感じている。英語の語順に慣れることを意識してパターンプラクティスをメインに取り入れ、聞き取ったことや話した内容を書いたり、ディクテーション活動などを効果的にいれていきたい。
2年	基礎は概ねできているが、活用に課題があることがわかった。意欲的に取り組める生徒とそうでない生徒で二極化している。	英語で書くことに抵抗感が強いので、まずは1文を確実に書かせることから始める。以前より続けている話す言語活動には自信を持って取り組める生徒が増えてきたので、継続していく。
3年	概ね理解できているが、語形・語法の知識・理解に関する項目に少し課題があった。3文以上の英作文に関する問題は平均を大きく上回った。	単語テスト・小テスト等で語彙力や文法力は養っているのだが、書くことを苦手としている生徒も多く、どのように応用させていくのかということも意識して指導していく。

10 特別の教科 道徳

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
違いを尊重しながら、自分の考えをもって物事に向き合う態度を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	ローテーション道徳にも慣れ、意見の交流や班活動での議論を通して、多様な価値観について理解を深められるようになってきている。	ICTを活用しながら、自分の考えを伝える方法を工夫して、一部ではなく全員で意見交流を図れる場を設定する。また、自分の考えに自信をもてるような声かけを全体に行う。

2年	日常の生活の中での出来事や社会問題に注目した観点で、お互いの意見を交換したり多面的に捉えられるような交流をしている。	自分の考えを相手に伝え、相手の考えを吸収する力に差があるので、意見を交流したあとに自分で振り返る場面を設定し、発表をするなどしていく。
3年	積極的に意見を発表し、互いの考えを尊重することができている。他者の発言を自分の意見と照らし合わせ、差異について議論したり考えを融合させたりしている。	意見を書くことや発表することはおおむねできているが、生徒間の個人差があるため、どの生徒もより深く考え、意見を表出できるように教員がはたらきかけていく。

1 1 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
・課題に対しての自分の考えを様々な方法で表現する能力を育成する。 ・自分の進路について考え、情報を集め、学習をすることの意義や理解を深めさせる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	横浜移動教室の事前学習で、設定したテーマに基づいて、調べ、自分の考えを表現する力がついてきた。	行事だけでなく、身近な職業に目を向けることからキャリア教育につながるような指導を行う。
2年	職業講話や上級学校調べなどの進路選択に関わる話を聞き、自分のこれからについて積極的に考えていた。	自分の理想実現に向けて、学習や校内外での取り組みの乖離が見られるので、実現に向けた計画を考えさせる時間をとれるような指導をする。
3年	自らを振り返り、課題を発見したら、それに対し自分の考えを様々な方法で表現している。また、進路について主体的に取り組む姿勢が視える。	目先の進路だけでなく、その先の将来についても具体的に考えられるような指導をする。広い視野に立って物事を考える生徒を育てる。

1 2 特別活動

目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力		
・集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。 ・人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	上級生との関わりなどを通して、目指すべき中学生の姿を学び、より良い学校生活を築こうとする態度を育てている。	学級活動・委員会活動に加え、生徒会活動の取り組みが始まることで、中学生としての自覚をもって学校行事等に主体的に取り組む態度を育成する場面を設定する。
2年	校内での中核を担う学年として、各委員会や部活動でも自主的に関わる場面が見られた。一方で、積極的に関わっていない生徒が見られる。	集団活動に積極的に関わっていない生徒について配慮しつつ、カウンセリングなどを行い、能力を活かせるように指導していく。そして、次年度に学校を引っ張っていけるように成長を促していく。
3年	学校のリーダーとしての自覚を持ち、行	現在の状況を継続し、後輩の手本として、全ての活

	事や部活動・委員会活動・学級活動などを通して、集団の一員としてより良い学校生活の基盤を作っている。	動に全力で取り組む態度を育成する。生徒が自発的に行動できるように促していく。
--	--	---

1 3 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
1 年	年度当初の職員会議でに特別な配慮を要する生徒の状況を情報を全教員で共有したが、十分とはいえない。夏季休業中に i-check の結果を学年で共有し今後の生徒一人一人を活かす話し合いを行った。	週 1 回行われる教育相談委員会の議事録を C4th の連絡掲示板に載せるだけでなく、学年教員と日常的に会話する。そして、特別な配慮を要する生徒をはじめとした生徒全員の状況を把握して、生徒一人一人を活かす学級活動を推進する。
2 年		
3 年		